

配偶者や交際相手との関係に「怖い」「つらい」と感じることはありませんか？

DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった人から振るわれる暴力のことです。中学生、高校生や大学生にもデートDVの問題が起きています。

暴力にはいろいろな形態があります。

身体的暴力 殴る、蹴る、たたく、物を壊す等。

経済的暴力 必要な生活費を渡さない、仕事をやめさせて経済的に弱い立場に立たせる等。

精神的暴力 「誰のおかげで生活できているんだ」「役に立たず」等の暴言、「自殺する」と脅かす、監視する、怒鳴る、無視する等。

デジタル暴力 メールチェック、数分置きに着信、メールアドレスの削除、インターネット上の書き込み、写真を使っただけの脅かし、GPS機能の悪用等。

性的暴力 性行為の強要、避妊に責任を持たない等。

DVは犯罪行為をも含む重大な人権侵害です。一人で悩まず、下記に相談してください。

女性のための相談を行っています

秘密厳守 相談無料

男女共同参画推進センター(市役所第3別館1階)では、自分の生き方や家族内の悩み、離婚問題、DVなどさまざまな悩みを抱えている女性のために相談室を開設しています。いずれも女性のカウンセラー・弁護士・相談員が対応します。

☎048-778-5110

受付時間 月～金曜日
午前8時30分～午後5時
(祝日・年末年始を除く)

※上尾市男女共同参画推進センターでは配偶者暴力相談支援センター業務を行っています。

女性のための相談

女性カウンセラーによる相談

日時 毎週水曜日午前10時～正午・午後1時～4時
相談時間 50分間 ※面接・電話相談可
対象 市内在住・在勤の女性
【予約制：相談月の前月1日から受付】

女性のための法律相談

女性弁護士による相談

日時 毎月第3火曜日午後1時～4時
相談時間 30分間 ※面接相談のみ
対象 市内在住の女性
【予約制：相談月の前月1日から受付】

女性のためのDV電話相談

女性相談員による相談

日時 毎週木曜日午前10時～正午・午後1時～4時
対象 市内在住の女性
【予約不要】

編集後記

上尾で産業祭とか大きなイベントがあると登場する、人気の「小麦まんじゅう」がどのように作られているのか取材しました。上尾市は大宮台地上に位置していますから水利が悪く、水稲栽培ができず、代わりに大麦・小麦が栽培され、なかでも中山道小麦が有名でした。この様な歴史を持つ「小麦まんじゅう」ですが、若い人への技術伝承の問題がありそうです。一方、上尾市出身の女子プロ野球チーム監督、川保さんも取材させていただきましたが、ここでも女子野球の発展という課題がありそうです。何れも早い時期に解消して欲しいものです。

(編集協力員：雨宮悦男・石野知子・久野清子)

■本紙へのご意見・ご感想をお待ちしています(住所、氏名、電話番号、性別、年代をご記入ください)。

Duet

デュエット 第36号 2015年(平成27年)3月発行(年1回発行)
企画・編集・発行 上尾市男女共同参画推進センター 〒362-8501 埼玉県上尾市本町3-1-1 TEL048-778-5111(直通) FAX048-778-5112

みとめ合い 思いやり ともに輝く!

男女共同参画情報紙



デュエット Duet

Vol.36 2015.3

- ◆男女共同参画セミナー「女性の元気が社会を変える」
- ◆夢は女子野球日本代表の監督として世界一
- ◆研究を重ね、昔ながらの小麦まんじゅうをさらにおいしく
- ◆デートDVセミナー 中高生がDV!それって何が起きているの?
- ◆配偶者や交際相手との関係に「怖い」「つらい」と感じることはありませんか?
- ◆女性のための相談を行っています

市男女共同参画推進センター主催

男女共同参画セミナー「女性の元気が社会を変える」

昨年9月5日、授乳服を企画制作する有限会社モーハウス(茨城県つくば市)代表・光畑由佳さんの講演が、上尾公民館で行われました。

出産後は我慢の日々が多くなる…。3児の母である光畑さんも例外ではありませんでした。「17年前、当時0歳の次女が電車の中で泣いてしまい、やむを得ず胸のボタンを外し授乳しました。その際多くの男性に見られている気がしました。」

これを契機に乳児を抱く母親がもっと自由に行動できるようにと「授乳服」を発売しました。肌を露出せず、場所を問わずおっぱいをあげられるという画期的な商品を世に出したのです。しかし発売した授乳服は予想に反してまったく売れなかったそうです。

「でもそれで自分のしたいことは授乳服を販売することではなく、育児やライフスタイルについての情報発信だと気がつきました」。そして次々と破天荒なパフォーマンスを展開。ステージ上で授乳服を使った「授乳ショー」を披露したり、30人ほどの母親たちと銀座で「授乳パレード」を開催したりしたのです。ちなみに今回の講演でも参加者の母親に突然「ここで授乳してみませんか」と誘い、授乳服を着せてすんなりと授乳させてしまいました。

さらにモーハウスでは、子連れワークスタイルという形を取っています。茨城県つくば市の事務所や都内渋谷区渋谷の店では、赤ちゃんと一緒に出勤する女性たちが活躍しています。「あきらめるのではなく、両立するために考えたシンプルなスタイルが子連れ出勤です。託児所やベビーシッターという考え方に加えた新しい選択肢の一つです」と光畑さん。

柔軟でしなやかな光畑さんの発想と考え方は、多くの母親の笑顔を生み出しています。生き生きと行動する母親の胸の中で過ごす赤ちゃんは、仕事も家庭も大切にできる大人にきっと成長することでしょう。



夢は女子野球日本代表の監督として世界一

日本女子プロ野球機構

今は、あまりメジャーなスポーツとして報道されていませんが、現在、日本には「日本女子プロ野球機構」があり、それぞれ女神にちなんだ埼玉アストライア（星の女神）、京都フローラ（花の女神）、兵庫ディオオーネ（空の女神）、東北レイア（山の女神）という4つのチームが参加しています。

女子プロ野球が発足して6年目となる今年から、全チームの監督が女性となりました。年間約60試合を行い、前期、後期に分けたそれぞれの優勝チームが女王決定戦を行い、年間女王を決定することになっています。



埼玉アストライア・川保監督

2年連続ベストナインから監督就任

埼玉アストライアの監督が川保麻弥さんです。上尾市の出身で、東中学校時代は軟式野球部、埼玉栄高校では女子硬式野球部に所属、以後日本体育大学でも活躍し、2008年卒業後、体育教師として上平中学校のバスケット部、のち大石中学校では男子野球部の顧問として指導しました。09年に日本女子プロ野球機構のトライアウト（入団テスト）に合格したのを機に中学校を退職し、いくつかのチームで捕手、4番打者の選手として最多打点、最多盗塁阻止率などを記録、2年連続で捕手としてベストナインに選ばれるなど活躍しました。

12年のシーズン終了後の球団再編で、イースト・アストライア（現 埼玉アストライア）所属となり、13年はコーチ兼任の捕手としてチームの年間優勝に貢献しました。彼女は以前から選手としてだけでなく、「女子プロ野球のみならず広く女子野球を盛り上げたい。野球が好きな女の子たちのサポートをしたい」という願望を持っていたのと、機構上層部からの女性監督就任の要請もあり、優勝を花道に現役を引退、14年からイースト・アストライアの監督になりました。14年東部地区の優勝を勝ち取り、昨年11月15日に西部地区優勝のウエスト・フローラ（現 京都フローラ）と年間女王を競って対戦しましたが、8対7で惜敗しました。

このような熱い思いを胸に秘めている川保さんにお話を伺いました。上尾市の実家で両親は健在ですが、現在はチームの都合もありチーム事務所のあるさいたま市浦和区北浦和に住んでいます。

いつ頃から野球と親しむようになったのか伺ったところ、父親と兄の影響で小学2年生の時から近所の少年野球のコーチに勧められてスポーツ少年団で始めたそうです。小学5年生から捕手に転向し、「女性では150キロのボールは投げられない。しかしブルペンキャッチャーなら男でも女でもできる」と半ば本気で考え、読売ジャイアンツのブルペンキャッチャーを志していたそうです。また、中学3年生までバットの素振りを毎日欠かさなかったそうです。以後はいろいろな経験を経て現在に至る訳ですが、将来の夢を語っていただきました。

上尾の後輩を発掘し育てたい

「上尾の後輩を何としても発掘して育てたい。その足掛かりとして上尾市民球場などで皆さんにゲームを見ていただきたい」と切望していました。

「将来の夢は女子野球日本代表の監督として米国をはじめ世界各国のチームと対戦し世界一になること、野球にはずっと関わっていききたい」と希望を話していました。上尾出身の女子プロ野球指導者の前途の活躍に上尾市民の一人としてエールを送りましょう。

研究を重ね、昔ながらの小麦まんじゅうをさらにおいしく



あげお産業祭や武道館まつりで早々に完売してしまう小麦まんじゅうについて、上尾市農業女性連絡協議会（アグリ女性21）会長の吉田秀子さんに伺いました。アグリ女性21は農業に携わる女性たちが集まり平成4年に発足、現在の会員は42人だそうです。

私たちは何気なくパクリと食べてしまいがちですが、作る方は売り物を作るのですから毎回緊張するそうです。中の“あんこ”は、会員が各家庭で丸めて持ち寄ります。皮は粉に水を加え、混ぜて30分くらい寝かせて、等分に分けます。あんを皮で包んで、蒸し器でふかします。同じ手順で作っても、皮が割れてしまうこともあり、それは会員用にとって置きますが、「それでも良いから」と売れてしまうこともあるそうです。

アグリ女性21では視察研修を行っており、その際は研修先の農作物や、道の駅で販売しているおまんじゅうを買い、食べ比べてみたり、研究もされたりしているようです。

「現在は会員も歳を重ね、若い方が増えてほしい」と希望されていました。

上尾市では昔から麦・小麦が主要な作物であったため、麦、とくに小麦を素材とした食文化が発達してきました。盆のハレの食事を「朝まんじゅうに昼うどん」といいますし、七夕や7月1日の初山のときにも、小麦まんじゅうは付き物でした。昔から上尾市で親しまれていたおいしい小麦まんじゅうをこれからも作り続けていきたいと思えます。



市男女共同参画推進センター主催 デートDVセミナー

「中高生がDV! それって何が起きているの?」

昨年11月25日、文化センター小ホールで埼玉県男女共同参画アドバイザーの大野清子さんとNPO法人CAPくれよん事務局の小野原典子さんを講師にお招きして、上尾市男女共同参画推進センター主催のデートDVセミナーが開催されました。

DV（ドメスティック・バイオレンス）は親密な関係の人の間の暴力とされていますが、デートDVは交際中の若いカップルの間で起こる暴力のことで、この暴力にはいろいろなものがあり、刃物で脅すなど怖い思いをさせるような身体的暴力、ひどい言葉で脅す、監視する、友達との交際を制限する、無断でのメールチェック、携帯電話のメールアドレス等を勝手に消してしまう等の精神的暴力、お金をたかる、借りたお金を返さない等の経済的暴力、キスやセックスを強要する、避妊しない等の性的暴力などの説明がありました。

最近の内閣府調査では、10代から20代の時「デートDV」の被害にあっている女性は13.7%、男性は5.8%います。20代の女性に限ってみると23.4%で実に4人に1人が被害を受けていることとなります。「暴力はどんなことがあっても許されない」という「常識」を作らなければいけない、自分が被害にあったら自分だけ責めず公的機関などへ相談する、デートDVと呼ばれるこれらの暴力は、深刻な問題につながる可能性もあるので、早いうちからの防止策が必要であるなど具体的な事例を交えての説明がありました。